南相馬市立鹿島中学校スローガン　「創造」「秀・和」「不屈」　～挨拶は　心の絆　挨拶で　心を磨く～

うがい手洗い・マスク・ワクチン・湿度・換気

車輪梅

＜鹿島中学校　学校だより＞

【令和2年1月号】

《重点目標》『自立した品格を目指し　今何をすべきかを考え　実行しよう』

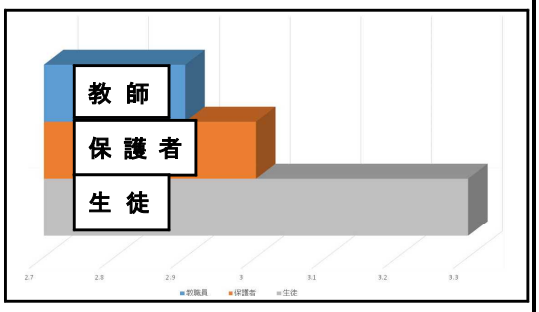
新たな目標の実現に向けて頑張ろう！

＜第３学期始業式　式辞より＞

新しい年を迎え、決意を新たに今年の目標はしっかり立てられたでしょうか。今、鹿島中学校も、今後の新たな目標を設定するために、去年１１月に実施した学校評価アンケートの集計結果を分析しているところです。その中で気になるデータが２つありました。今日は、そのことについて、一緒に考えたいと思います。

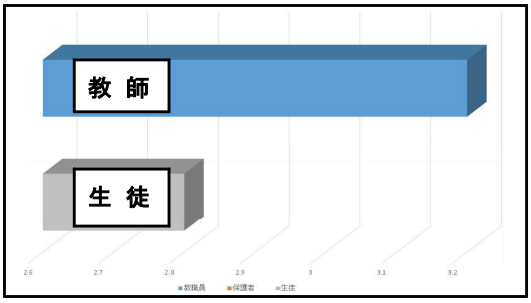
「自分から積極的に家庭学習に取り組んでいる」という問では、皆さんと先生方の評価には大きなずれがあります。鹿島中生は、自主学習に取り組む習慣が身についているので今年度の全国学力・学習状況調査の質問紙調査の結果では、計画を立てて家庭学習をする生徒の割合や学習時間は全国平均を大きく上回っていますが、今回、評価が大きく開きました。考えられるのは、先生方は皆さんに、時間や量をこなすだけの『やらされてやる勉強』から、「今日の授業で分かったからもっと勉強してマスターしたい。」「あまりよく分からなかったから、復習してできるようにしたい。」と『自分から積極的に攻めていく学習』をしてほしいと思っているからです。

●自分から積極的に家庭学習に取り組んでいる



「自分によいところがあると思う」という問では、先生方が高く、皆さんが低いという学習とは正反対のずれがありました。自分にはよいところがあると思える感覚を自己肯定感といいますが、諸外国の若者に比べて、日本の若者の自己肯感がかなり低いことは、我が国の大きな課題の一つにもなっいます。みんなの自己肯定感が低いと、自信が持てず、将来の希望が持てず、他者への思いやりが持てず、笑顔がなくなり、生きにくい社会になっていきます。だから、自己肯定感を高めていくことはとても大切なことです。１日のおよそ３分１を学校で皆さんと共に過ごしている先生方は、皆さんの良さや頑張りをよく知っています。だから、皆さんの可能性を信じ、大きな期待をかけています。一方、皆さんは、自分で自分の限界を決めてしまっているのかも知れません。

●自分によいところがあると思う



この二つの課題の改善のために共通していることは、「やらされ感が強い学校生活だと充実感や達成感が得られにくい。だから自分から意図的に自分で達成感を作っていくことが大事である」ということです。そのためには、毎日取り組んでいるSPLを見直してみるのも一つの方法です。

例えば、「１日の反省」の欄には、学校生活で印象に残ったこと、授業で分かったことやできたことについて、どんな小さなことでもよいからプラス面を書いて自分で自分を褒めてく。「家庭学習の計画」の欄には、克服したい教科、もっとできるようにしたい教科の学習内容について、その日に達成可能なスモールステップで書き、実行する。このようにすれば、自分で自分の達成感を作っていくことができるはずです。

今年はねずみ年です。干支は、新しい生命が誕生し、成長し、次の世代にその命を受け継ぐ生命のサイクルを表しているとも言われます。子年の今年は、干支の最初の年、新しい生命が芽吹いて伸びようとする年です。新しい目標をたてて、その目標の実現に向けて頑張ってください。更なる成長を期待しています。